

# 科学・政治・宗教をめぐる暴力の系譜

## 21世紀的身体（こころ）を展望する

同志社大学神学部教授、一神教学際研究センター長 こはら かつひろ  
小原 克博

### （講演要旨）

西洋では近代化と共に社会は機能分化を遂げ、公的領域には政治や科学が配置され、宗教は私的領域に置かれるようになった。政教分離は近代化・世俗化の帰結であるだけでなく、宗教と結びついた過剰な暴力を抑制するための知恵でもあった。しかし、近代化によって暴力全体が抑制されることはなく、むしろ、科学・政治・宗教において、暴力の現象形態は分化していった。

また、社会の機能分化と共に、人間の身体もまた分割的に理解されてきた。しかし、思想・信条（こころ）と身体（社会的次元）を簡単に切り離すことはできず、こころの身体的「可視化」を求める運動が様々な形で起こっている。それは世界各地の宗教復興現象から、同性愛をめぐる議論（アメリカ）やムスリム女性のヴェール論争（ヨーロッパ、トルコなど）に至るまで多岐にわたる。そして、それぞれの議論の場が、時として、暴力的言説、さらには暴力そのものを生み出すことがある。多様な暴力を21世紀的身体はどのようにコントロールしていくことができるのか。

本講演では、暴力の系譜をたどりつつ、21世紀における暴力（紛争・戦争を含む）とどのように向き合っていたらよいのかを考える。

### 1. はじめに——起源的考察

#### 1) 心と体の分化と一体性

死者の葬送（宗教の起源）：死者からの影響を抑制するためには「とむらい」が重要であった。神々や動物の霊もまた人間に影響を及ぼすと考えられた（自然災害、疫病の流行を含む）。例：御霊信仰（北野天満宮、祇園祭の起源）

心と体の一体性：宗教は心も体も分けずに救済の対象とした。信仰や儀礼は「暴力的な力」からの解放を意味していた。例：初期キリスト教とグノーシスとの身体をめぐる葛藤

#### 2) 宗教と暴力の根源的關係

- ・ 「暴力」とは何か：意に反して力を及ぼされること

「暴力は、その語が持つ、可能なかぎり広く、もっとも基本的な意味を考えるならば、あるもの（大事であれ小事であれ、集団であれ個人であれ、そしておそらく言葉と物も含めて）から別のものに対して——物理的な仕方によってであれ、別の仕方によっ

てであれ——行使される、あらゆる要因を、あらゆる合法・非合法の力を含んでいる。そのように規定された暴力の主要な原型は、〈宗教的なもの〉と呼ばれる伝統のもつ重要な諸原理の中にある。(何らかの) 宗教なき暴力はないし、(何らかの) 暴力なき宗教もないのである」(ヘント・デ・ヴリース『暴力と証し』219頁)。

Cf. 暴力概念の拡張：「直接的暴力」と「間接的暴力」(小原克博『宗教のポリティクス』109-111頁)

- ・ アガペー(愛)の中の暴力性

「わたしが来たのは地上に平和をもたらすためだ、と思っはならない。平和ではなく、剣をもたらすために来たのだ。わたしは敵対させるために来たからである。人をその父に、娘を母に、嫁をしゅうとめに。こうして、自分の家族の者が敵となる。わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない」(「マタイによる福音書」10:34-37)。

「もし、だれかがわたしのもとに来るとしても、父、母、妻、子供、兄弟、姉妹を、更に自分の命であろうとも、これを憎まないなら、私の弟子ではありえない」(「ルカによる福音書」14:26)。

「自分たちが生まれ落ちた有機的共同体から「<sup>アシンプラグ</sup>絶縁する」ようにわれわれに命じるのは、愛そのものなのである」。「キリスト教とは、〈一者-全体〉の均衡を壊乱する奇跡的な〈出来事〉である。それは、宇宙の均衡した循環運動を脱線させる〈差異〉の暴力的な介入である」(スラヴォイ・ジジェク『脆弱なる絶対』172頁)。

### 3) 宗教と暴力の両義性

「暴力性」からの解放の力。「暴力性」の起源。この両者を単純に分割すべきではない。

## 2. 現代における暴力

### 1) 宗教は暴力を助長しているのか？

- ・ 9. 11の前と後
- ・ 宗教的暴力(テロ)は「例外」か？ 暴力の「外部化」は平和をもたらすのか？

### 2) 例外状態

「主権者とは、例外状態に関して決断を下す者である。」(カール・シュミット『政治神学』1933年)

「例外状態」は宗教的(政治的)な次元では「善悪の闘争」を引き起こす一因となる。ユルゲンスマイヤーは、こうした戦争状態を「コスミック戦争」と名付け、それが暴力の背景にあるだけでなく、暴力を用いる理由にもなっていると指摘している(マーク・ユルゲンスマイヤー『グローバル時代の宗教とテロリズム』274-279頁)。

### 3) 身体をめぐる争い

- ・ 米国：キリスト教会における中絶、同性愛をめぐる論争。公立学校での同性愛の扱い

は「文化戦争」の火種となる可能性がある（cf. 進化論論争における科学と宗教）。

- ・ ウガンダ：同性愛禁止法（同性愛者に対して終身刑や死刑）の成立が間近という報道。
- ・ カトリック：聖職者による性的虐待問題の拡大。
- ・ フランス：2004年、公立校のライシテに関する法律（通称「ヴェール禁止法」）。2010年9月、ブルカの禁止法案が可決（来春から実施）。10月、ビンラディンが仏政府に撤回を要求。
- ・ シリア：2010年7月、ヴェール（ニカブ）禁止法を施行。
- ・ トルコ：2010年9月、世俗主義を緩和する要素を含んだ憲法改正案が国民投票により可決。

#### 4) 「こころ」の可視化

こころ（思想・信条、「私的領域」）と身体（社会的表象、「公的領域」）を簡単に切り離すことはできず、こころの身体的「可視化」を求める運動、および、それを封じ込めようとする運動が様々な形で起こっている。拮抗する両者の間で、暴力的言説（＝構造的暴力）、さらには暴力そのもの（＝直接的暴力）が生み出されることがある。

Cf. 1980年代以降の宗教復興運動

### 3. 世俗化・世俗主義——科学・政治・宗教の機能分化

#### 1) 倫理的要請としての世俗主義

- ・ 暴力性・残虐性を抑制するため

「世俗主義の主たる動機の一つとして、従来あまりにもしばしば宗教が焚きつけ、正当化してきた残虐性に終止符を打ちたい、との願望があったことは明白である。ここで残虐性とは、他者の生ける身体に対し、この世において、意図的に苦痛を科し、またその精神に苦悩をもたらすことを言う」（タラル・アサド『世俗の形成』131頁）。

- ・ 世俗主義の副産物として、こころと身体の二極分化が進む。こころの問題は宗教に、身体の問題は政治・科学に振り分けられる。

#### 2) 暴力の機能分化

世俗主義（≡政教分離）によって、宗教が暴力（紛争、戦争）に関与する可能性を政治的に抑制することが考えられた。政治（政治的支配者）に起因する暴力は長い歴史を持つが、科学の潜在的暴力性は19世紀後半以降、徐々に現象化してくる。

近代史における三者の協同関係

- ・ 政治：近代国家による暴力の一元的支配。
- ・ 科学：自然界からのエネルギーの抽出（収奪）とその利用。生命の序列化（優生学）。
- ・ 宗教：国家秩序の正当化（科学も同様の機能を負う）。

#### 3) 世俗主義のジレンマ

- ・ 宗教の倫理化・道徳化

近代のヨーロッパ、アメリカ、日本における事例（小原、前掲書、67-72頁参照）。

- ・ 近代的暴力（戦争）を（国民）道徳化した宗教は抑止し得たのか？  
ナチズム下のキリスト教、戦時下の日本宗教の事例（同上、第3章参照）
- ・ 「憎悪」ではなく「無関心」により起動する近代的暴力のシステム  
反ユダヤ感情（憎悪）とホロコーストの違い

#### 4. 人間の暴力性を認識し抑制するための知恵——日本の場合

##### 1) 人間の動物に対する暴力

科学技術力の進展による、動物と人間の「対称性」「均衡」の崩壊、そして動物の家畜化。

##### 2) 動物供養

動物慰霊：人間と動物の「対称性」を維持し、「痛み」を記憶する知恵の一つ。

#### 5. 21世紀的課題の展望

##### 1) 生命倫理：遺伝資源（生物多様性）の維持・活用

科学技術の対象は「外なる自然」から「内なる自然」（生命・人体）へ。

##### 2) 社会倫理：憎悪の「身体化」（可視化）

- ・ 9.11以降の「イスラモフォビア」（イスラームへの憎悪感情）の高まり  
世界的なスケールで「イスラームの本質化」が進行。宗教的アイデンティティが特殊化される。Cf. ホロコーストにおける「ユダヤ人の本質化」
- ・ 憎悪感情や敵対意識をいかに緩和することができるか  
「排除の力学」を分析すること。世俗主義の単純な適用（宗教の社会的・文化的側面を無視した封じ込め）は必ずしも問題解決に至らない。宗教的な差異を私的空間に押し込め、差異を周縁化・不可視化することは、社会の断片化を招く危険性をはらんでいる。Cf. チベット問題

##### 3) 環境倫理：動物・自然の「身体性」（痛み）の認識

現代社会は「痛み」を排除する社会。「痛み」の回路をどのように回復するか。

#### 6. まとめ

- 1) 宗教は、人間の両極端を見極めるレンズの役割を果たしている。
- 2) 「例外状態」を注視する。
- 3) 暴力の起源と共に暴力（戦争）の「近代性」を洞察する。
- 4) 科学・政治・宗教の「インターフェイス」（連携）をどのように機能させるか。
- 5) 生物多様性と人間の暴力性の認識（自然世界と人間との乖離と身体的連続性）